

2015.7.17

## 川崎市渋川貯留管及び朝日新聞印刷工場の見学会の報告書

【日時】平成 27 年 7 月 16 日（木）集合 9:00 ～解散 15:00

【見学場所】渋川貯留管及び渋川ポンプ場…川崎市幸区矢上 450

朝日新聞印刷工場…川崎市中原区西加瀬 19-1

【参加者】渋川貯留管 34 名、朝日新聞印刷工場 33 名、（案内係り 4 名含む）

【費用】500 円（パンフ他資料保険代等）+700（昼食代）=1,200 円

【天候】曇り時々雨

【見学コース概要】

① 渋川貯留管、渋川ポンプ場の見学 9 時 50 分～11 時 30 分

② 朝日新聞印刷工場の見学 13 時～15 時

【内容等】台風 11 号の本土接近に伴い、15 日の夜半から雨が降り、見学会の開催が心配されましたが、当日は朝方より幾分雨があがり、15 時までの見学会が無事に行われた。

前日に川崎市の田村係長から「当日は雨の影響のため地下に入れられない可能性が大きい。その時はご容赦願いたい」との連絡を受けました。見学会の大きなポイントである巨大な地下を見れないのは残念ですが自然には逆らえないので、次回の渇水期に再度、計画をしたいと思いました。

9 時 40 分に渋川貯留管の事務所に集合して、市の担当者の紹介と案内係りの紹介、見学会の取材をされる「かわぼ」の市民記者の石渡さんの紹介がありました。その後、見学会のスケジュール、注意事項、連絡事項を受けて 1 班と 2 班に分けて見学会が開始されました。

会議室で下水道の仕組みや役割（合流式、分流式）、渋川貯留管、渋川ポンプ場の各役割や仕組み、建設したシールド工法などのご説明を市の担当者（1 班田村係長、2 班寺田さん）から受けました。

渋川貯留管は地下約 60m までゴンドラで降りて巨大トンネルの入り口を見学する予定でしたが、前日の雨のため構内に入れませんでした。構内に入れられないため返送ポンプ施設を見学しました。貯留管に入ってくる雨水のごみを取り除く施設、ゴミが取り除かれた雨水がらせん状（ドロップシャフト）に流れ落ちる様を見学しました。雨水は直接、滝のように 60m 下に落とすのでなくらせん状に落とすとの説明がありました。直接落とすと底板部の施設に悪影響を及ぼすとの事。

その後、渋川ポンプ場の施設の見学。見学者の方々は熱心に説明をお聞きして、ポンプが動く仕組みなどかなり難しい質問もされていました。制御管理室では川崎市を中心とした 120 キロ圏内の雨雲が大きなディスプレイに映し出されていました。麻生区にあるレーダで雨雲をとらえているとの事。この情報で何時間後には雨がどのくらい降るのかを予測し、事前に準備をしておくとのこと。

なかなかこのような市民生活にかかわる施設を見学する機会はないので皆さん熱心に聞き入っている様子でした。いつでも自由に見学は出来るのかとの質問もされていた方がいらっしゃいました。申し込めば個人でも見学可能との返事でした。

11時半に渋川貯留管を見学終了後、斜向かいにある中華レストラン「バーミヤン」でお昼をいただきました。人数が多いのでお店側の要望で日替わりランチと勘定は一括してほしいとの依頼があったため、個人のお好みを注文できなかったのは少し残念でした。食事は油ものが多かったので中高年にはあまり好まれなかったのではないかなと思いました。今後の課題と思いました。

12時10分頃お店を出て、朝日新聞印刷工場のプレゼルームに移動。これも事前に、朝日新聞の朝日プリンティックさんお願いしていたために13時開始の見学会前にこのプレゼルームで待機できたのは良かったと思いました。皆さん、時間までにトイレ休憩したり、プレゼルームにある新聞のパネルなどをご覧になっていました。

13時より朝日新聞印刷工場の見学会開始。ビデオにより概要を知る。13時30分から刷版工場の見学をする。従来なら本社から送られてきた記事がCTP版に印刷されて出てきて輪転機に取り付けられる工程だが、そのCTP版がなかなか出てこない。緊急を要する記事などがある時は良くあるとの事。今国会でもめている安保関連法案が影響しているのかなとの説明者のお話でした。

輪転機の大きさや新聞が急流に流れる川の様子に動いている様子をみて驚く。昔、テレビや映画で事件を報道するため新聞の輪転機が回っている場面を思い出した。新聞の材料は王子製紙と日本製紙との説明がありました。70%が古紙だそうです。巻き取られた新聞の材料は幅1.27m、重さ1.5トン、長さは80キロとの説明でした。一日120本使用するそうです。この巻き取られた新聞の材料を機械で取り込む作業も見せていただきました。積み上げられた巻取紙（給紙）は東日本の地震時にも倒れなかったとの事。

プレゼルームに戻り、オフセット印刷の仕組みを実演を交えて説明をしていただきました。目の前で実演をしながらの説明でしたので、とてもよく理解できました。

市民生活にかかわりがあるが、あまり私たちの目に入らない渋川貯留管といつも毎日確実に家庭に届けられる新聞がこのような流れでできているのかを知って大いに驚き、勉強になりました。そして働いている人々の輝きを見た感じの見学会でした。

市の関係者の方々、朝日プリンティックの関係者の方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【写真集】



見学前。事務所前でスケジュール等の説明を受ける見学者の皆さん。



会議室前の廊下で。渋川貯留管の模型の前で説明を受ける見学者の皆さん。



返送ポンプ室の構内。ごみ取り機械とドロップシャフトを覗く見学者の皆さん。



制御管理室。ディスプレイに写した出された雨雲の映像を観る皆さん。



渋川ポンプ場で説明を聞く皆さんと会議室で説明を聞く皆さん。



渋川貯留管見学会終了後、中華レストラン「バーミヤン」で昼食。



昼食後、朝日プリンティックさんのプレゼンテーションルームに移動して、見学会までの待機。

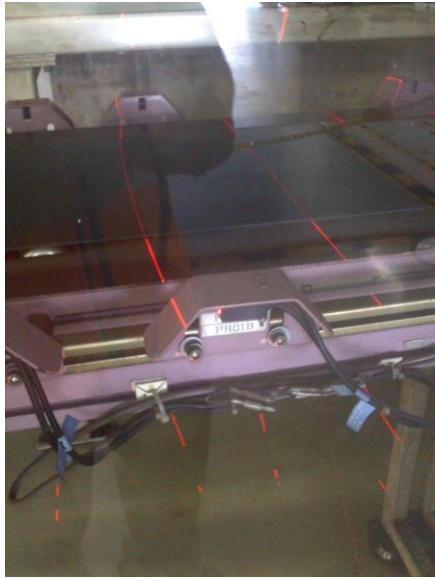
各々トイレ休憩やパネルの見学、お茶を飲むなど見学時間までの間、くつろいでいました。



印刷工場の見学。13時半。CTP版が出てくるのを見学する皆さん。レーダーで焼きとられたアルミ板（CTP）がなかなか送られてきません。作業の方は手持無沙汰のようでした。今国会でもめている安保関連法案の影響かと話されていました。



紙庫。1本は幅1.27m、重さ1.5トン。長さが80キロあるそうです。積み上げられた紙のロールを機械で下している作業を実演していただきました。



仕上がった新聞を各配送先にレーザーで分類します。



トラックステーション。トラックで神奈川や東京の販売店に運ばれます。



給紙のロボット。



印刷の仕組みの実演を見る皆さん。  
オフセットとは。ブランクットとは。画線部とはなどの専門用語の質問も沢山ありました。